

大学名 旭川医科大学

第69号 特集テーマ「国立大学のこれから」

表題 マルチタスク型地域医療医の育成：北海道の医療課題を解決するためのモデル構築

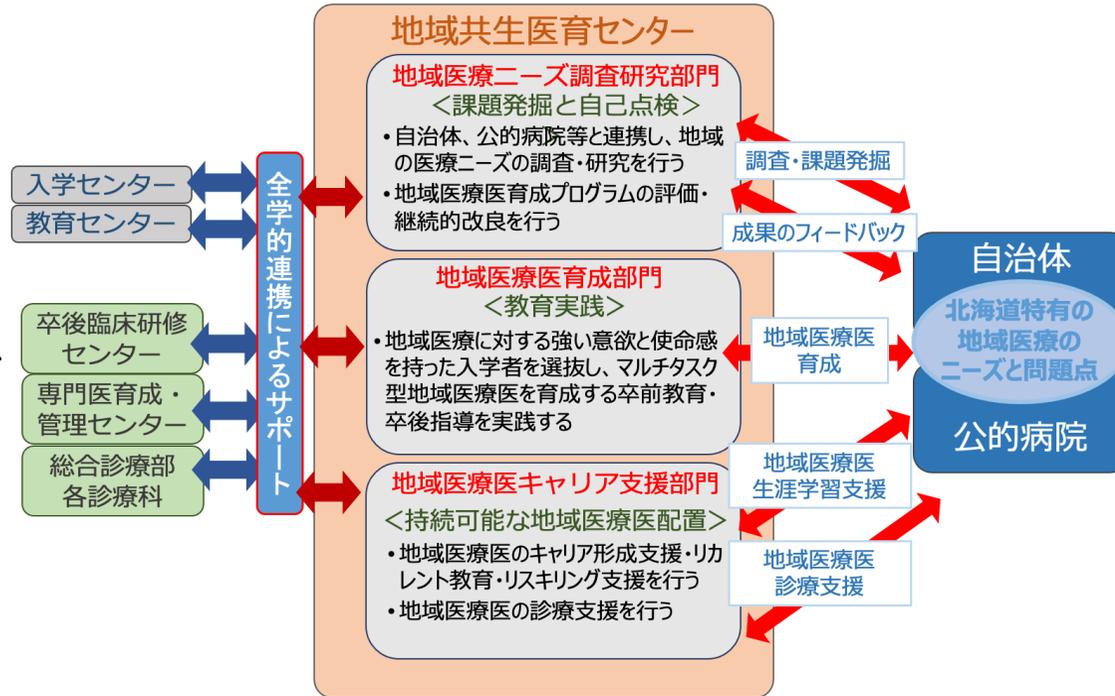
【背景】

北海道では、人口減少、高齢化、地理的・気候的条件、社会インフラの衰退が年々深刻化しており、刻々と変化する医療・介護のニーズに対応可能な、効率的で質の高い医療体制の整備は喫緊の社会課題となっている。広大な面積を持つ北海道においては、医師・医療機関の偏在が著しく、住民の生活の安定と福祉の向上を支える医療を確保するためには、単に医師数の増加を図るだけでは十分とは言えない。

本年開学50周年を迎える本学では、「地域医療に根ざした医療・福祉の向上に貢献する医療者の育成」という建学の理念に立ち返り、現在の北海道特有の地域医療課題を解決し、社会貢献を果たすことをミッションとして改めて掲げた。そのためには、自治体や公的医療機関等との連携をさらに深めるとともに、教育・研究体制を進化させ、地域医療に真に貢献できるマルチタスク能力を持った意欲的な医師を育成する体制が必要であると考えられる。

【取り組みの概要】

急激な社会変化に伴い、北海道においては、病院総合診療、家庭・在宅医療、離島僻地医療、救急災害医療に広く精通するマルチタスク型地域医療医の必要性が高まっている。このような地域医療医を養成するためには、多面的な教育体制の整備が必要である。また、各地域の医療ニーズを調査し、正確に把握した上で、地域医療医を派遣し、大学として支援することも欠かせない。その中心的組織として「地域共生医育センター」を設立する。その中に「地域医療ニーズ調査研究部門」、「地域医療医育成部門」、「地域医療医キャリア支援部門」の3部門を設置し、それぞれが、①各自治体や公的病院を含めたステークホルダーとの連携・協働による北海道特有の地域医療の課題の発掘と地域医療支援体制の自己点検評価と継続的改良、②課題解決に向けた新たな教育体制構築、③持続可能な地域医療課題解決のための地域医療医支援、を実践する。



以上の取り組みにより、医師それぞれが地域医療への貢献と自身が望むキャリアパス実現を両立させることを可能にし、本学のアカデミアとしての機能強化とミッション実現を加速させていく。そして、地域の医療提供体制改革を推進する医療基盤を社会と共創していきたい。

【期待される成果】

北海道の地域特性に適合するマルチタスク型地域医療医を育成・輩出することは、医師の不足・偏在を中心とする深刻な医療課題を直接に解決する突破口となると考えられる。また、教育機関として地域の行政計画(医療計画)を推進させる人材育成に寄与することは、国立大学としての社会貢献の真骨頂である。